

体 育 科 部 会

研究主題 一人一人が運動の楽しさを知り，意欲をもって取り組む体育学習

1 主題について

従来のテーマを引き継いでいる。部活動・スポーツ少年団活動などで運動に取り組む子どもと、全く取り組まない子どもとの二極化が進んでいる。そうした中で運動の楽しさを知り，実生活の中で運動に親しもうとする態度を育てることは，生涯にわたって重要なことである。今年度は主に，ボール運動を素材として研究実践を進めてきた。

2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月31日	第2回総合研究会 授業研究会（扇田小学校）
6月11日	実技研修会（扇田小学校）		

3 研究内容

(1) 実技研修

- ・期 日 平成25年6月11日 ・会 場 扇田小学校
- ・内 容 子どもの体力向上指導者要請研修の伝達
- ・指導者 秋田県教育庁保健体育課 安田 知明 指導主事

(2) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月31日 ・会 場 扇田小学校
- ・単元名 6年「ソフトバレーボール」 ・授業者 間嶋 祐樹

① 授業者から

- ・単元構成に当たっては，パスを続けて習熟していく流れにした。一方，子どもたちにはアタックを打ちたいという願いがあり，それも取り入れるようにした。
- ・ワンバウンドプレーは子どもたちにとって易しいルールである。ノーバウンドではゲームが成立しない。
- ・言語活動を取り入れるため，記録シートでゲームの振り返りをした。また，作戦盤を使ってポジショニングを話し合うようにした。
- ・何回で返球するかのルール設定が難しい。3回は難しいが5回だと曖昧になる。
- ・簡易化された低次のゲームから高次のゲームへと進むようにし，ルールもそれに伴いレベルアップするような単元構成とした。

② 協 議

- ・ワンバウンドルールに簡易化しているため，人がいない場所はアウトになってしまう。コートを広くするか，チームの人数を減らすかしたらよいのではないか。
- ・子どもたちが楽しめている。本時のチームの人数が子どもの実態に合っていた。また，単

元構成も楽しさを味わいながら進められるようになっていた。

- ・ワンバウンドOK, セッターのボール保持OKならば, 3回返球でもよい。3回ならば次につなぐ意識も生まれる。また, 守備位置に対する意識も生まれるのではないか。
- ・アタックに対するレシーブのみワンバウンド可にして, 他はノーバウンドにする。正規のバレーボールにつながるまで経験させたい。
- ・6年生の最終段階ではノーバウンドにステップアップしていくのがよい。ワンバウンドだとあまり動かなくてよい。中学校への接続を考えると, ボールの下に入る動きも考えたい。
- ・中学校を見越して, 指導要領の技能には「素早く場所を移動したり」とある。まずここを身に付ける必要がある。そのためにルール作りをしていけば良いのではないか。
- ・落とさないというルールであればどうだったか。サーブを捕る→セッターへ→アタックという組み立てにする。小学校段階では3段攻撃を分断して扱ってもよいのではないか。



【アタックを取り入れた攻防】

(3) 指導助言 (佐藤 勇一 指導主事)

- ・運動量が確保されている。本時は話し合う時間が17分間で, 授業時間の半分以上が運動のために確保されていた。これは, 運動の2極化に対応すること上でも有効である。
- ・教師の指示が簡潔で, 言葉を子どもたちから引き出している。
- ・狙いを達成するための言語活動が取り入れられていた。作戦盤やスコアシートで論理的思考力が育成され, 「あったか言葉」や役割分担, 支援を要する児童への他児童の心遣いなどでコミュニケーション力が育成されている。
- ・単元構成は「4・4・4」の系統性を踏まえた指導が大事。本単元では指導と評価の計画が, 易しいところから難しいところへと向かっており, ネット型ゲームを楽しむ構成がなされている。
- ・中学校への系統性や子どもの実態からすると, 中1, 2年ではラリーが重視されるため, サーブレシーブ→セッター保持→アタックという流れを意識したルールでもよかった。
- ・思考判断では, チームの特性に応じた作戦が求められる。単元の終末では, 対戦相手を指定し, 自分たちの作戦を検証するためのリーグ戦を考えてもよい。
- ・場の工夫やルールに関しては, 子どもたちの実態からするとノーバウンド, 3回返球も可能ではないか。「できそうだ」と提示することで意欲を引き出せる。ボールを持たないときの動きとして, 素早い動きをさせるためにも, チームの人数を減らしノーバウンドにすることが考えられる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ルールの工夫に関しての様々なアイデアが出され, 子どもの実態や学年の段階に応じたルール設定の仕方について理解が深められた。

(2) 課題

- ・中学校への接続, 系統性を踏まえた指導を今後も考えていく必要がある。